

聖餐式 2020.4.10 聖金曜日

特 禱 聖金曜日特禱

旧約聖書 イザヤ書 52:13-53:12

日課詩編 第 2 2 篇 1~11 節

使 徒 書 ヘブライ人への手紙 10:1-25

福 音 書 ヨハネによる福音書 19:1-37

聖金曜日特禱(特禱は当日の朝から用い、朝の礼拝、夕の礼拝には最初のものだけを用いる。)

ぜんのう かみ かぞく いつく みまも
全能の神よ、あなたの家族であるわたしたちを、慈しみのうちに見守って
ください。主イエス・キリストは、この家族を救うために甘んじて裏切られ、
つみびと て わた じゅうじか し と ちち せいれい いったい
罪人の手に渡され、十字架の死を遂げられました。父と聖霊とともに一体
であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストに栄光があります
ように。アーメン

えいえん ぜんのう かみ せいれい ぜんこうかい きよ つね おさ
永遠にいます全能の神、聖霊をもって全公会を清め、常にこれを治めら
れる神よ、どうか、主の公会に属するすべての人のために献げる祈りを聞
き、おのおのその務めを尽くし、誠実な心をもってあなたに仕えさせて
ください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

いつく ふか かみ つく ひと あい つみびと し
慈しみ深い神よ、あなたは造られたすべての人を愛し、罪人が死ぬこと
を望まれず、主に立ち帰って生きることを喜ばれます。どうかあなたを
信じない人びと、十字架にかけられたキリストへの信仰を拒む人びとをみ
こころ と き さと ことば かる こころ
心に留め、その気づかないでいることを悟らせ、み言葉を軽んじる心と
かたくなな心とを除き、主イエス・キリストに従わせてください。父と聖霊
とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによ
ってお願いいたします。アーメン

旧約聖書 イザヤ書 52:13-53:12

み しもべ さか たか あ
見よ、わたしの僕 は栄える。はるかに高く上げられ、あがめられる。か
つて多くの人をおのかせたあなたの 姿のように、彼の 姿は損なわ
れ、人とは見えず、もはや人の子の面影はない。それほどに、彼は多く
の民を驚かせる。彼を見て、王たちも口を閉ざす。だれも物語らなかつ
たことを見、一度も聞かされなかったことを悟ったからだ。わたしたちの聞
いたことを、誰が信じえようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあ
ろうか。乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように、この人は主の
まえ そだ み おもかげ かがや ふうかく この ようし
前に育った。見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない。
かれ けいべつ ひとびと み す おお いた お やまい し
彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、多くの痛みを負い、病を知っている。
かれはわたしたちに顔を隠し、わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。彼
が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのはわたしたちの痛みであ
ったのに、わたしたちは思っていた、神の手にかかり、打たれたから彼は
苦しんでいるのだ、と。彼が刺し貫かれたのは、わたしたちの背きのた
めであり、彼が打ち砕かれたのは、わたしたちの咎のためであった。彼の

う こ へいわ あた かれ う きず
受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷に
よって、わたしたちはいやされた。わたしたちは羊の群れ、道を誤り、
それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて、主は
かれ お くえき か こ かれ うち ひら
彼に負わせられた。苦役を課せられて、かがみ込み、彼は口を開かなか
つた。屠り場に引かれる小羊のように、毛を切る者の前に物を言わない
ひつじ かれ うち ひら と さいば う かれ いのち
羊のように、彼は口を開かなかつた。捕らえられ、裁きを受けて、彼は命
と くれ じだい だれ おも めぐ たみ そむ
を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか。わたしの民の背
かれ かみ て いのち もの ち た くれ
きのゆえに、彼が神の手にかかり、命ある者の地から断たれたことを。彼
ふぼう はたら くれ いつわ はか かみ さか もの
は不法を働かず、その口に偽りもなかったのに、その墓は神に逆らう者と
とも と もの とも ほうむ やまい くる ひと う くだ しゅ
共にされ、富める者と共に葬られた。病に苦しむこの人を打ち砕こうと主
のぞ くれ みずか つぐな ささ もの くれ しそん すえなが つづ
は望まれ、彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が未永く続くのを
み しゅ のぞ くれ て な と くれ みずか
見る。主の望まれることは、彼の手によって成し遂げられる。彼は自らの
くる みの み し まんぞく しもべ おお ひと
苦しみの実りを見、それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が
ただ もの くれ つみ みずか お
正しい者とされるために、彼らの罪を自ら負った。それゆえ、わたしは多
ひと くれ と ぶん くれ せんりひん ひと う くれ
くの人を彼の取り分とし、彼は戦利品としておびたしい人を受ける。彼
みずか し つみびと かぞ おお ひと
が自らをなげうち、死んで罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人の
あやま にな そむ もの と な ひと
過ちを担い、背いた者のために執り成しをしたのは、この人であった。

日課詩編 第22篇 1~11節

1 わたしの神、わたしの神、どうしてわたしを見捨てられるのですか ||
どうして遠く離れて助けようとはせず、わたしの叫びを聞こうとされな

いのですか

- かみ ひる さけ よる さけ
2 神よ、昼、わたしが叫んでもあなたはこたえられず || 夜、叫んで
も心は安らぐことはない
- せい かた さんび す
3 あなたは聖なる方 || イスラエルの賛美を住まいとされる
- せんぞ しん くれ すく
4 わたしたちの先祖はあなたを信じ || あなたは彼らを救われた
- くれ たす もと き い しん はじ う
5 彼らは助けを求めて聞き入れられ || 信じて恥を受けることはなかつた
- むし ひと ひと たみ あなど
6 わたしは虫けらであって人ではない || 人にそしられ、民に侮られる
- かみ もの わら い
7 わたしを見る者はみな笑い || わたしをあざけて言う
- くれ しゅ たの かみ すく く かみ くれ ところ か
8 「彼は主を頼みとした。神が救いに来ればよい || 神が彼に心を掛
けているのなら、救い出せばよい」
- はは たい と だ ちぶさ そだ
9 あなたは母の胎からわたしを取り出し || その乳房でわたしを育て
られた
- よ せい う はは たい
10 この世に生を受けたときからわたしはあなたのもの || 母の胎に
たときから、あなたはわたしの神
- とお はな なや せま たす
11 わたしから遠く離れないでください || 悩みはわたしに迫り、助けに
く もの
来る者もない

使徒書 ヘブライ人への手紙 10:1-25

いったい、律法には、やがて来る良いことの影があるばかりで、そのも
のの実体はありません。従って、律法は年ごとに絶えず献げられる同じい
けにえによって、神に近づく人々を完全な者にすることはできません。
もしできたとするなら、礼拝する者たちは一度清められた者として、もは

や罪の自覚がなくなるはずですから、いけにえを献げることは中止され
たはずではありませんか。ところが実際は、これらのいけにえによって年
ごとに罪の記憶がよみがえって来るのです。雄牛や雄山羊の血は、罪を
取り除くことができないからです。それで、キリストは世に来られたときに、
次のように言われたのです。「あなたは、いけにえや献げ物を望まず、
むしろ、わたしのために体を備えてくださいました。あなたは、焼き尽
す献げ物や、罪を贖うためのいけにえを好まれませんでした。そこで、
わたしは言いました。『御覧ください。わたしは来ました。聖書の巻物に
わたしについて書いてあるとおり、神よ、御心を行 うために。』」ここで、
まず、「あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽す献げ物、罪を贖うため
のいけにえ、つまり律法に従って献げられるものを望みもせず、好まれも
しなかった」と言われ、次いで、「御覧ください。わたしは来ました。御心
を行 うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初の
ものを廃止されるのです。この御心に基づいて、ただ一度イエス・キリス
トの体が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。
すべての祭司は、毎日礼拝を献げるために立ち、決して罪を除くことので
きない同じいけにえを、繰り返して献げます。しかしキリストは、罪のため
に唯一のいけにえを献げて、永遠に神の右の座に着き、その後は、敵
どもが御自分の足台となってしまうまで、待ち続けておられるのです。な
ぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人たちを
永遠に完全な者となさったからです。聖霊もまた、わたしたちに次のよう
に証ししておられます。「『それらの日の後、わたしが彼らと結ぶ契約は
これである』と、主は言われる。『わたしの律法を彼らの心に置き、彼ら

の思いにそれを書きつけよう。もはや彼らの罪と不法を思い出しはしな
い。』」罪と不法の赦しがある以上、罪を贖うための供え物は、もはや
必要ではありません。それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血に
よって聖所に入ると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分
の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださった
のです。更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられる
のですから、心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で
洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。
約束してくださったのは真実な方なのですから、公に言い表した希望を
揺るがぬようしっかり保ちましょう。互いに愛と善行に励むように心がけ、
ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いまし
よう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、
ますます励まし合おうではありませんか。

福音書 ヨハネによる福音書 19:1-37

そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。兵士たちは茨で冠を
編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとい、そばにやって来ては、
「ユダヤ人の王、万歳」と言って、平手で打った。ピラトはまた出て来て、
言った。「見よ、あの男をあなたたちのところへ引き出そう。そうすれば、
わたしが彼に何の罪も見いだせないわけが分かるだろう。」イエスは茨
の冠をかぶり、紫の服を着けて出て来られた。ピラトは、「見よ、こ
の男だ」と言った。祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、「十字架

につける。十字架につける」と叫んだ。ピラトは言った。「あなたたちが引き取って、十字架につけるがよい。わたしはこの男に罪を見いだせない。」ユダヤ人たちは答えた。「わたしたちには律法があります。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。」ピラトは、この言葉を聞いてますます恐れ、再び総督官邸の中に入って、「お前はどこから来たのか」とイエスに言った。しかし、イエスは答えようとされなかった。そこで、ピラトは言った。「わたしに答えないのか。お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、このわたしにあることを知らないのか。」イエスは答えられた。「神から与えられていなければ、わたしに対して何の権限もないはずだ。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い。」そこで、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。「もし、この男を釈放するなら、あなたは皇帝の友ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。」ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。それは過越祭の準備の日の、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに、「見よ、あなたたちの王だ」と言うと、彼らは叫んだ。「殺せ。殺せ。十字架につける。」ピラトが、「あなたたちの王をわたしが十字架につけるのか」と言うと、祭司長たちは、「わたしたちには、皇帝のほかに王はありません」と答えた。そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。こうして、彼らはイエスを引き取った。イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。そこで、彼らはイエスを十字架につけ

た。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください」と言った。しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡すようにした。下着も取って見たが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渇く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。イエスは、このぶどう酒を

う 受けると、^{な と}「成し遂げられた」と言い、^{い あたま た いき ひ と}頭を垂れて息を引き取られた。

その日は^{ひ じゅんび ひ}準備の日で、^{よくじつ とくべつ あんそくび}翌日は特別の安息日であったので、^{じん}ユダヤ人たちは、^{あんそくび いたい じゅうじか うえ のこ}安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、^{あし お と}足を折って取り降ろすように、^{ねが で}ピラトに願い出た。そこで、^{へいし}兵士たちが来て、^きイエスと一緒^{いっしょ}に十字架につけられた^{さいしょ おとこ}最初の男と、もう一人の男^{ひとり おとこ}との足を折った。イエスのところに^き来てみると、^{すで し}既に死んでおられたので、その足は^{あし}折らなかった。しかし、^{へいし ひとり やり}兵士の一人が槍でイエスのわき腹^{ぼら さ}を刺した。すると、^{ち みず なが で}すぐ血と水とが流れ出た。それを目撃した者が^{もくげき もの あか}証ししており、その証し^{あか}は真実である。その者は、^{あな}あなたがたにも^{しん}信じさせるために、^{じぶん しんじつ}自分が真実^{あか}を語っていることを知っている。これらのことが起こったのは、「その骨は^{かた}一つも砕^しかれない」という^お聖書の言葉^{ほね}が実現するためであった。また、^{かた}聖書の別の所^{せいしょ べつ ところ}に、「^{かれ}彼らは、^{じぶん}自分たちの^{つ さ}突き刺した者^{もの み}を見る」とも書いてある。